

令和3年度入試
へるん入試「読解・表現力試験」問題

モデル問題

注意

1. 問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
2. 問題紙は6ページ、解答用紙は2枚です。指示があってから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
3. 答えはすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
4. 解答用紙の裏面は使わないでください。
5. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
6. 試験終了後、問題紙は持ち帰ってください。

1 次の文章を読み、問に答えなさい。

【AさんとBさんとの会話】

A：「フェイクニュースが広まっていると聞きました。フェイクニュースとは何ですか？」

B：「フェイクニュースとは、一般に、真実ではない、偽のニュースのことを指します。」

A：「なぜフェイクニュースが広まっているのですか？」

B：「一口にフェイクニュースといっても、その中身は様々です。単純に人々を驚かせることを目的としたフェイクニュースもあれば、特定の人や組織などを攻撃するためのものもあるようです。いずれにしても、インターネットや SNS の発達により、誰でも広く情報を発信できるようになったからこそ、フェイクニュースが広まっていると言っ
てよいでしょう。」

A：「フェイクニュースが広まり、ニュースの中に真実のニュースと偽のニュースとがあると
なると、今社会で何が本当に起きているのか、分からなくなってしまいます。どうす
ればいいのでしょうか？」

B：「どうすればいいと思いますか？フェイクニュースに関する新聞記事とコラムを讀ん
で、考えてみましょう。」

【新聞記事】

マレーシア 対策法、発信者に禁錮刑も 政権批判封じ込めと指摘

「フェイクニュース」の発信者には最高 50 万リンギ（約 1370 万円）の罰金、もしくは 6 年以下の禁錮刑を科す——。マレーシア議会で審議が進む「対策法」の内容だ。近く与党の賛成多数で成立する見通しだ。

政府が提出するこの法案はフェイクニュースを「全部、または一部が事実と反するニュース、情報、データと報告書」と幅広く定義する。外国人や外国メディア、フェイクニュースの流布を財政的に支援した人も罰則の対象だ。

マレーシアでは 4 月下旬にも総選挙が予定されている。政府はすでに新聞など大手メディアの報道内容を統制しているが、新法には新興のネットメディアの政権批判を封じ込める狙いがあるとみられている。

ネットメディア「マレーシア・キニ」のステイブン・ガン編集長は「罰金が多額。わずかなミスをもとに記事がフェイクニュースだと断じられ続ければ破産しかねない」と心配する。

厳しい言論統制を敷く隣国シンガポールでも昨年 6 月、シャンムガム法相が 2018 年内にフェイクニュースを取り締まる法律を定めると表明した。

3 月に公聴会を開くと、新法が言論統制を強めるとの懸念があがった。「新法が異論を封じ
るために使われれば、ネット上にわずかに生まれた言論の自由さえ失われ、政府の考え

る『真実』しか残らない。」昨年、新しくネットメディアを作った歴史家のサム・ピンジューンさんはそう語る。

こうした動きについて国際人権団体ヒューマン・ライツ・ウォッチのフィル・ロバートソン氏は、従来の言論統制の網から漏れたネット上の言論空間の成長を各国政府が警戒したためだと指摘。「フェイクニュース規制法はメディアに限らず幅広い大衆が対象。多くの人が処罰を恐れて自主規制を始める恐れがある」と懸念する。

(2018年4月1日付朝日新聞より 許諾番号 20-4531)

【コラム】

フェイクニュースと戦う

IT革命で私たちの情報へのアクセスは飛躍的に高まり、SNSの登場で誰もが何百万人という人に向けて自分の考えを自由に発信できるようになった。自由な言論・自由な意思表示の保障は民主主義を支える基礎だ。もはや情報発信は既成報道機関の専売特許ではない。

他方、SNSを悪用して意図的にデマをまき散らす輩もあとを絶たない。世界には顧客の依頼でSNS上に大量のデマを流すのを商売にしている連中がいて、それを重用する政治勢力もいる。世は「ポスト真実」の時代、受け手の側にも「嘘でも信じる」素地があり、「デマでも15%くらいは信じる奴がいるから十分商売になる」というから話はやっかいだ。

そんな時代、海外の大手メディアは正面から「フェイクニュース」に立ち向かおうとしている。例えばフランスのニュース専門メディア「France24」。SNSで流れた映像を取り上げ、事実関係を丹念に精査し、具体的に証拠を挙げ、誤りを指摘して客観的に正しい内容の報道を伝え直す、という番組を作っている。

番組の最後にキャスターは「SNSで流れる映像やコメントをそのまま無批判に信じてはいけない。私たちは、今もこれからも、事実に基づいた客観的で信頼に足る報道を行っていく」と宣言する。

極論やヘイトスピーチ、誹謗中傷、フェイクニュースが氾濫し、権力でさえSNSを使って世論を操作しようとする時代、プロの報道機関がなすべきはこういうことではないか。

(2019年6月12日付朝日新聞より 許諾番号 20-4531)

問1 【AさんとBさんの会話】の部分を読み、フェイクニュースが広まる背景となっている現象を、40字以内（句読点を含む）で説明しなさい。

問2 【新聞記事】の全体の内容を、以下の四つの語をすべて用いて、80字以内（句読点を含む）でまとめなさい。なお、四つの語の順序は問わない。

フェイクニュース 法律 自主規制 自由

問3 【新聞記事】と【コラム】とから読み取ることのできる、フェイクニュースへの対応策を二つ、それぞれ40字以内（句読点を含む）で述べなさい。

② 次の文章を読み、問に答えなさい。

設問 A

道路、上下水道や鉄道、港湾といった、(A) な生活を送るために必要な様々な施設をまとめて社会インフラと呼びます。社会インフラには生活を便利にするためのものだけでなく、ダムや堤防など、日々の生活を (B) にするためのものもあります。食料を生産する田んぼや畑などの農地や、それらに水を送る施設も、立派な社会インフラと呼べるでしょう。私たちの便利で安全な暮らしは、これら社会インフラに支えられています。

明治以降、日本は社会インフラを構成する様々な施設を、長い期間をかけて少しずつ造ってきました。一つ一つの施設には寿命があるため、老朽化が進み、寿命が尽きた施設は造り直すことが必要です。少しずつ造られた時代の施設は少しずつ寿命を迎えていたため、少しずつ造り直せば十分でした。そのため造り直す費用などについて、特に問題になるようなことはありませんでした。

その後、1960 年代から 1970 年代にかけての高度成長期と呼ばれる時代に、社会インフラの大量整備が行われました。技術の進歩に加えて空前の景気の好況が続き、豊かな税収に支えられて公共事業が手広く行われた結果、利便性と安全性が大きく向上しました。またこの時期、社会インフラ整備の対象に (C) が含められました。人口の少ない農村部への社会インフラ整備は、費用が掛かる割には恩恵を受ける人が少なく、費用対効果が小さいとみなされたため、あまり実施されませんでした。優先して行われた都市部の整備がかなり進んできたこと、不便な農村部から便利な都市部への人口流出が問題になり始めたこと、また財源に余裕ができたことなどが重なった結果、農村部にも立派な道路や上下水道が整備されることになったのです。

そんな高度経済成長期から 40 年を過ぎた頃、この時期に建設された社会インフラの老朽化が問題になり始めました。しかしこの 40 年間で日本の経済状況と社会情勢は大きく変化し、高度成長期と同じような金額を社会インフラのために費やすことは不可能になっていました。(D) が後退して税収が減ったことに加え、高齢化が進んだ結果、集めた税金の多くを社会保障に使うことが必要になったためです。また廃棄物の最終処分場に余裕がなくなり、古い施設を取り壊したときに出る廃棄物を捨てる場所にも困るようになりました。つまり、古くなった数多くの施設を取り壊すことも、新しい施設を造って置き換えることも難しい社会になったのです。

このような状況を受け、新しい技術が開発されています。古い施設の状態を調べ、そのまま使い続けることができるのか、修理すればまだ使える状態なのか、それとももう取り壊すしかないのか、などを判断できるようになってきました。今使えている施設がいつ頃使えなくなるかを予測する技術も、少しずつですが進歩してきています。施設を修理し、使える期間を延ばすこともできるようになりました。しかし、修理を繰り返せばいつまでも使い続けることができる、というわけではありません。いつか必ず造り直

しが必要になります。

社会インフラの老朽化との戦いは始まったばかりで、状況は時とともに悪くなる一方です。技術と費用を使ってすべての社会インフラを維持し続けるのか、一部の施設を放棄するのか、放棄するならその施設に頼っている人々の生活をどうするのか。決断を下さなければならない時期が目前に迫っています。

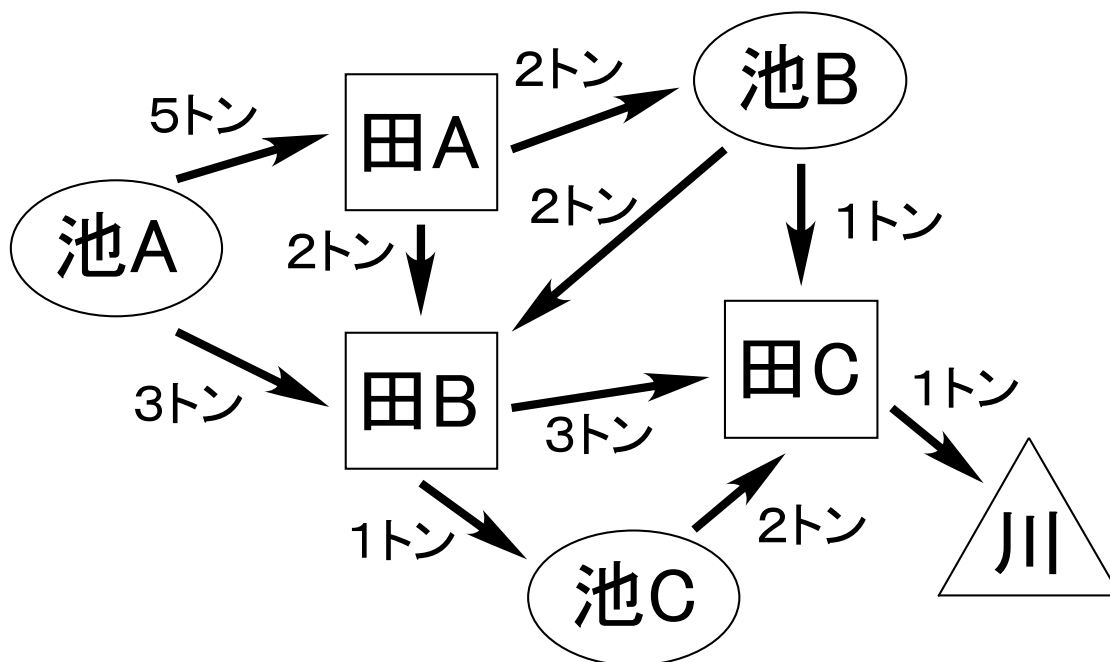
問1 空欄 A～D に入る単語を、それぞれ本文中から抜き出さない。

問2 文中の表現を使い、この文章に 10 字以内でタイトルをつけなさい。

問3 この文章で使われている「施設」と「社会インフラ」という単語の意味の違いを 50 字以内（句読点を含む）で説明しなさい。

設問B

ある小さな集落で、今後の農業をどうするかを検討を行うことになりました。この集落では、池の水を田んぼに引いて稲作を行い、余った水を川へ流しています。田、池や水路の配置と、ある1日に水路に流れた水の量を調べたところ、下図のようになっていることがわかりました。



問4 この日、池には水路以外を通る水の出入りはありませんでした。池A、池B、池Cのそれぞれについて、この日に減った水の量を求めなさい。

問5 田では水の稲による消費、空気中への蒸発、地中への浸透（水のしみ込み）などが起こるため、それぞれの田に流れ込む水の量と流れ出す水の量には差があります。この差が田の消費水量です。田A、田B、田Cのそれぞれについて、この日の消費水量を求めなさい。

問6 水は標高の高いところから低いところへ流れます。3つの池と3つの田の計6つを、標高の高い順に並べなさい。